

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・6月の来客数は年度当初の見込みを30%上回る状況で推移している。割引率の高い団体客が大きく減少している一方で、個人客が大幅に増えていることから、客単価が大きく上昇しており、営業利益も上向きとなっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・料金負担が発生する駐車場の利用客やバスの乗降客の動きから、来街者数が増加しているような状況は確認できなかったものの、各店舗やホテルの駐車場では、2～3か月前と比べて満車となる時間帯が多くみられた。観光客も含めて、市外から訪れる客が増加傾向にあることがうかがえる。また、若年層の来街者も前年と比べて増えている。特にコンビニや駅周辺の店舗は売上を伸ばしたとみられる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・6月の売上は2023年比で118.8%、2022年比で231.8%、2021年比で1661.5%、2020年比で1237%、2019年比で126.3%となっている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・取引先からの受注量が増えている。客単価も上昇傾向にある。
	○	百貨店（売場主任）	単価の動き	・夏物衣料品の動きをみると、全体的な販売量が大きく伸びているわけではないが、国内外の富裕層の客単価が伸びている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク以降、飲食と比べて物販の動きが鈍くなっていたが、ここに来て物販の販売量がやや増加しており、全体売上の底上げが図られるようになっている。
	○	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・一般的に予算にシビアな会社が少なくなっていることから、景気はやや良くなっている。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・旅客の伸びが若干鈍くなっているものの、車両、特に乗用車の輸送量が増加している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・6月は比較的天候に恵まれたことから、まずはじめの売上を維持できた。周辺のイベントの集客も好調であり、こうした流れが続くことを期待している。
	□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・緩やかな物価上昇局面にあることもあって、全体的な販売量は落ち込んでいるものの、1人当たりの買上点数は前年を維持している。
	□	スーパー（役員）	お客様の様子	・食品の値上がりが続くなか、金を使うときは使って、それ以外のときは節約するというメリハリがみられるようになっている。観光やイベントなどで人が動いているものの、全体的な景気は横ばいで推移している。
	□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・客の動きをみると、依然として、価格の安い店舗で必要な物しか購入しない傾向がみられる。賃金の上昇による効果を期待していたが、変化はみられない。観光客の動きも前年と比べて鈍くなっている。
	□	衣料品専門店（エリア担当）	単価の動き	・3か月前と比べて、売上は変わっていない。客単価は若干上昇しているが、来客数が伸びてこないことから、衣料品以外への支出が増えていることがうかがえる。こうした流れは3か月前と同様であり、景気は変わっていない。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・自動車の生産状況が変わらなければ、状況は変わらない。自動車メーカーの不正検査問題が新たに発覚したが、今のところ、販売への影響はみられない。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上は前年並みに回復しているものの、需要が一部の季節商材に偏っている。販売量が回復していない商材も多く、買上点数と来客数が前年を下回っていることから、3か月前と比較して景気が上向いているとはいえない状況にある。	

□	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	単価の動き	・石油製品価格が高値のまま推移していることから、客の節約志向が強くなっている。年内は燃料油価格激変緩和対策事業が継続するようであるが、その後が不透明なことも心配である。
□	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・前年と比較して客単価が低下傾向にある。取引件数だけみると、そこまで変化はみられないが、大規模受注がないことから、月全体でみると、売上が大幅に減少している。
□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・6月下旬まで天候不順が続き、外食控えの動きがみられたことから、売上は前年を下回るとみられる。また、客単価が低下傾向にあることから、客の節約志向の高まりがうかがえる。SNSで外食情報が減少していることもマイナスである。知り合いの農家レストランでは、天候不順の影響でいちご狩りのいちごが赤くならず、売上に大打撃を与えたとのことであり、気候変動に対する不安感が強まっている。
□	スナック (経営者)	来客数の動き	・客の入込が少しでも良くなることを期待していたが、来客数は4月や5月と比べても変わらなかった。
□	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・法人の団体旅行については、需要が回復していない。特に海外旅行は円安の影響を強く受けており、提案しても実施に至らないことが多い。国内旅行についても、全国旅行支援の反動を受けて、前年を下回る傾向が続いている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・6月のタクシー1台当たりの売上は、昼も夜も前年とほぼ同様であった。前年の秋以降、乗務員の採用に注力していることもあって、ここ数年減少し続けていた乗務員が増加に転じており、現在、ドライバーが前年比で25%増加している。ドライバーが増えた分、タクシーの稼働も増えており、売上は前年から約25%の増加となった。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・慢性的に乗務員が不足しており、夜間の運行が手薄になっている。一方、地域のイベントなどが活発に行われていることから、今後のタクシー稼働が上向くことを期待している。
□	美容室 (経営者)	来客数の動き	・相変わらず客の消費意欲が低調なままであり、来店周期が長くなっている。関連商材の売上も低調に推移している。
□	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・住宅着工数が増えていないこと、原材料価格と人件費が高止まりしたままであることから、景気は変わらない。
□	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・イベントの来客数が減少している。
▲	商店街 (代表者)	単価の動き	・物価の上昇に伴って、買上点数が減っている。客単価の2極化も一層進んでいる。
▲	商店街 (代表者)	お客様の様子	・客との会話で、景気が良くなっていることがうかがえるような話がみられなかった。
▲	一般小売店 [土産] (経営者)	来客数の動き	・夏前ということもあって、インバウンドの入込は余り多くなかった。国内線の利用客は、前年と比べて年配客が増えているものの、若い世代の客が前年よりも減っている。前年に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことの反動もあって、前年ほど多くの世帯が動いていない。旅行先の選択肢が広がっていることも影響している。
▲	スーパー (店長)	来客数の動き	・これまでは値上げによる商品単価の上昇で、来客数の減少分をカバーできていたが、6月については、来客数の減少幅が大きく、商品単価の上昇でカバーできなかった。気温が上がらないこともあって、特に衣料品部門の来客数が顕著に減少している。
▲	スーパー (店長)	販売量の動き	・物価高に歯止めがかかっていないことから、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー (店長)	来客数の動き	・物価が上がっているなか、収入がそれほど増えていないこともあって、客の買物回数が減少傾向にある。

	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年は卵不足で卵の価格が上昇するなか、購入者が殺到したことから売上が伸びていたが、今年はその反動もあって売上が前年を下回っている。それに加えて、4月以降も収入が増えていない世帯が多いなか、商品の値上げが続いていることから、全体的に消費が落ち込んでいる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・自動車メーカーの不正検査問題の影響が大きい。受注及び生産を停止している車種が多いことから、地区全体の受注状況が厳しくなっている。
	▲	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・当店は60代から80代にかけての客が多く、売上の大部分を担っている。ここに来て、そうした年配客の来店率が明らかに低下している。これからの生き残りに向けては、若い年代の客の健康志向が強まっていくことが必須条件となる。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・賃金上昇の動きは地方には届いていない。一方、物価上昇が収まらないことから、消費を控える傾向が強まっている。当店においても、客足が鈍化している。
	▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降、空港のグランドハンドリング人材とジェット燃料の不足により、国際便の就航中止が相次いでいる。インバウンドが急減しており、市場が冷え込んでいる。
	▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・国内路線の利用状況を見ると、ビジネス需要の減少が続くなか、前年度まではコロナ禍で蓄積していた帰省需要や観光需要の回復により補填できていた。しかしながら、今年度に入ると、帰省需要や観光需要が一段落し、ビジネス需要の減少が顕在化している。物価上昇の影響もあって、全体的に人の動きが鈍っており、コロナ禍前の水準まで回復していない状況がいまだに続いている。
	▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数の減少が加速している。一方、他社の商材も含めて、インターネットに関する質問のために来店する客が増加している。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・僅かではあるが、6月の来客数は減少傾向で推移した。夜間の利用客にはほとんど変化がみられなかったものの、観光客からのオーダー、インバウンドの利用が減っていることで、日中の利用客が減少している。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年と比べて落ち込んでいる。ここ3か月の動きをみても、少しずつ減少している。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高の影響について話す客が多いことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・最近になって、分譲マンションのモデルルームを来訪する客の購入意欲が明らかに以前よりも低下している。購入予算もかなり引き締められており、所得水準と比べて、より低価格のマンションを購入する傾向がみられる。
	×	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・6月に入り、来客数が大幅に減少している。
	×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・円安に伴う物価高の影響で、客の節約志向が進んでおり、必要な商材以外は買わない傾向がみられる。当社の扱っている商材はおしゃれな外出着が中心であるため、客の節約志向が強く表れている。
	×	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・夏に向けて価格の安い軽衣料が販売の中心となっていることから、客単価が大きく低下している。複数購入が売上を支えることになるが、今年は本当に最低限の買上しかみられず、どうしようもない状況にある。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・夜間の酔客の落ち込みが続いている。特に深夜時間帯の落ち込みが大きく、2次会などで利用される飲食店と同様の厳しい状況にある。コロナ禍前と比べて夜間の人の動きが大きく変化していることで、消費行動が抑制されている状況にある。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・技術職員の現場配置が完了し、フル稼働の状況にある。当初計画を上回るペースで工事が進んでおり、出来高が順調に積み上がっている。

(北海道)	○	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・春先と比べて、建材類の国内移送量が増えている。一方、輸出入貨物については、円安や中国の景気後退の影響が依然としてみられており、期待とは程遠い状況で推移している。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・原価や諸経費、人件費の増加を背景に、企業の値上げ交渉が進んでおり、販売価格が改善傾向にある。ただし、価格転嫁について、原価の増加分を十分にカバーできる水準にはないとの声が聞かれるほか、価格上昇が需要の減少を招き、想定ほどの利益を確保できないという声も聞かれる。
	○	広告代理店（従業員）	それ以外	・定額減税の影響もあって、景気は上向いている。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・国内全体の土木建設需要は堅調に推移している。特に北海道、九州、北陸の需要は旺盛である。また、インフレに伴ってコストが上昇するなか、販売価格の適正化も進みつつある。今後に向けて、不透明な要因も一部あるものの、景気はやや良くなっている。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と比べて変わらない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・技術者不足のため、発注があっても応えることができない状況にある。景気が良いわけでもないことから、これから景気が下向くことを懸念している。
	□	通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の受発注状況や見聞きした内容について、3か月前と変化がみられない。ただし、全体的な景況感としては、やや良くなっている。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・相続登記の義務化に伴い、相続登記の依頼は増えている。一方、個人の住宅新築については、自身の受注量や同業者の様子をみても減少している。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・上期の予測について、5月よりも若干上向きとなっている。ただし、価格改定が続くなか、取引量が上向いているわけではないことから、決して安心できる状況ではない。
	▲	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・青果物について、景気の悪い状況が続いている。高止まりしている市場価格及び小売価格が更に上昇していることから、6月の景気は一段と悪くなっている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新築住宅着工棟数が前年を下回り続けている。
	▲	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年の不作の影響で農産物の在庫が少なく、保管量、輸送量共に減少している。こうした状況は、新物が出てくるまで続くことになる。生乳については、生産抑制が解除されたものの、本州への輸送量は相変わらず低調に推移している。バター、粉乳については、倉庫の在庫量が微減傾向で推移している。
	▲	司法書士	取引先の様子	・今のところ、不動産業や建築業からの受注量は前年と同水準で推移している。ただし、地域によっては固定資産評価額が上昇し、それに伴って販売価格も上昇していることから、今後も同水準の受注量が続きかは分からない。原材料価格が引き続き高騰するなか、賃金水準よりも販売価格が上昇していることもマイナスである。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
○	*	*	*	
(北海道)	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・当社の派遣登録数がやや減少している。ボーナスが6月に支給される会社が多いことから、動きが鈍っているとみられる。一方、転職への意欲が落ち込んでいるわけではないことから、7月になれば、登録数は増加することが見込まれる。ただし、転職の目標が曖昧な登録者、転職歴の多い登録者については、転職に苦戦することが懸念される。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・求人企業、求職者共に、減少傾向にある。円安を背景とした飼料、肥料の価格高騰、物価の高止まりが、将来への不安要因として影を落とし始めている表れとみられる。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・引き続き求人数は弱含みで推移している。建設業や介護福祉の求人数はやや伸びているものの、その他の業界は伸び悩んでいる。大手企業と中小企業の2極化も進んでいる。一方、隙間バイト系のサービスが様々な業界の求人を獲得している状況もみられる。
□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・当社の広告掲載申込件数は1年ほど前から大幅に減少している。ただし、ハローワークによると、当地企業による求人数は微減での推移となっている。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における5月の有効求人倍率は0.80倍であり、3か月前との比較では0.09ポイント下回った。
□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数は前年から0.8%の増加、有効求職者数は前年から1.0%の減少となった。また、新規求人数は前年から3.7%の増加と2か月ぶりに増加に転じたが、有効求人数は前年から1.1%の増加にとどまった。これらのことから、景気は3か月前とほぼ変わらない状況が続いている。
□	学校 [大学]（就職担当）	雇用形態の様子	・多くの業界で新卒初年度の給与を引き上げている企業が増えているが、人材確保のための対策であり、景気が上向いているとは言い難い状況にある。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・業種を問わず、求人数は3か月前と同水準又は減少傾向にある。
×	—	—	—